

はじめに

私たちのふるさと栃木県は、雄大な山並みと清らかに流れる河川、緑あふれる森林や里山に恵まれ、これらが織りなす四季折々の風景を随所に見ることができるなど、自然と身近にふれあいながら、快適で心豊かに暮らせる環境にあります。

この自然豊かで美しい“とちぎ”の環境の恵みを楽しむだけでなく、次の世代にしっかりと引き継ぐことが現代に生きる私たちの責務であるといえます。

しかし、環境を巡る問題は多岐に渡り、地球規模の問題である温暖化対策については、昨年パリで開催されたC O P 21において、2020年（平成32年）以降の新たな法的枠組みとなる「パリ協定」が採択されるなど、全世界での取組が求められています。

一方、我が国では総人口が長期の減少局面に突入しています。本県も例外ではなく、特に中山間や農村地域では地域の存続をも脅かしかねない状況となっています。

また、野生鳥獣による農林産物被害が増加しているなど、地域を維持、活性化するための取組が一層求められています。

このような状況や、これまでの環境保全に関する施策、環境の現況等を踏まえ、県では本年3月に「守り、育て、活かす、環境立県とちぎ」を将来像に掲げ、新たな環境基本計画を策定しました。

また、併せて、環境基本計画の部門計画である「栃木県地球温暖化対策実行計画」、「栃木県廃棄物処理計画」の策定と、「生物多様性とちぎ戦略」の見直しを実施し、県民の皆様と一丸となって各種施策に取り組んでいくこととしました。

この「栃木県環境白書」は、本県の環境の状況や平成27年度に県が実施した環境保全に関する施策等についてまとめるとともに、前環境基本計画（平成23～27年度）の取組状況を総括しております。本書を通して、県民の皆様は環境問題への理解を深めていただくとともに、「守り、育て、活かす、環境立県とちぎ」の実現に向けた「行動」の一助となれば幸いです。



平成28年 9月

栃木県知事

福田 富 一